



新しい学び・人・キャンパス
福岡看護大学の魅力を
ご紹介します！



貴重な、濃い2年間を

大学院生 伊藤 博貴

福岡看護大学大学院の一期生として入学してから7か月余り経ったが、僕が大学院に入学した経緯と現在の状況を話そうと思う。思うところがあった。大学4年生のときに病院へ就職するという選択肢は僕の中からは消えていた。僕が、学部生から直接、大学院へ進学した理由は、当初は世間的に体裁が良い大学院に所属し、ただただ2年間、時間を稼ぐためであった。「この知識を極めたい」でも、「こんな研究をしたい」でもなく、より良い人生の選択をするための時間稼ぎである。大学の教授からは「伊藤君は、モラトリアムだね」と言われるが、自分で学費と生活費を払うという条件で親は許してくれた。人生の質を洗練し研ぎ澄ますため、僕にとつては非常に濃い2年間である。

入学してから実際に『大学院』というものに触れると、経験していない学問のレベルの高さに最初は戸惑ったが、同級生、先生に支えてもらいながら何とか今、必死に食らいついていくことができている。入学して特に感じたのは、大学院生の主体性の凄さだ。学部生とは違い、どんなものでも知識として取り込んで、学び続けるという姿勢に感激し、毎日刺激を受けている。基準値が高い同級生がいる環境に入れたことは、将来に活かせそうでワクワクしている。

この2年間が無駄な時間にならないよう、僕は死ぬ気で生きていくつもりだ。



夢を叶える場所
「福岡医療短期大学」
多くの出会い・絆を育てている
短大の情報をお届け！



福岡医療短期大学
地域連携センター教授
古野 みはる

福岡医療短期大学地域連携センターは、令和3年4月に学校法人福岡学園福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学の地域連携センター分室として開設した。

福岡医療短期大学では、同センター開設以前より、地域の老人会「おしゃべりつく会」への月一回の出前講座や公開授業の実施、社会福祉法人学会と共に「かふえもりのいえ」を立ち上げ、学生ボランティアの派遣など、積極的に地域貢献活動を担ってきた実績がある。現在、コロナ禍での活動となり制約が多いが、特に、地域高齢者に対する健康教育と学生の教育力リキュラム(授業)をさらに連動することで、地域高齢者のフレイル予防の促進と実践的な能力を身に付けた医療従事者の育成につなげていきたい。

また、今後も福岡歯科大学・

福岡看護大学、医科歯科総合病院、三つの介護施設と連動して、地域や自治体、医療機関並びに介護施設、他大学等と連携を図った取り組みを行ってきたい。

福岡医療短期大学のコト
がよくわかる
Online Open Campus

